**著者校正用チェックリスト**

著者校正の段階において，以下に列記する見落としが散見されます。著者の責任において，隅々まで誤りがないか確認し，各項の左端チェック欄に☑を入れて著者校正原稿とともに印刷所へ返送して下さい。**校正が不十分な場合，論文の掲載が次号以降となることがあります。**

|  |
| --- |
| 注）筆頭著者が大学院生等の場合，指導教員もしくは担当責任者が，本チェックリストに基づく最終チェックを行った後，署名捺印して下さい。英文の投稿論文についても本チェックリストに準じて下さい。 |

論文題名：

筆頭著者　　　　　氏名　　　　　　　　　　　印

指導教員（責任者）氏名　　　　　　　　　　　印

１．標　題

　□　英文標題において，前置詞，接続詞，冠詞以外は単語の先頭文字を大文字とする。

　□　単語と単語を‐（ハイフン）で結ぶ場合，ハイフンの前の単語のみ大文字にするか，前後の単語を大文字にするかは，著者自身で判断して表記を統一する。

２．キーワード

　□　英語はすべて小文字とするが，固有名詞は最初の文字のみ大文字とする。

３．発表実績，会員資格の有無，著者の所属

　□　筆頭著者および責任著者(Corresponding author)は農業食料工学会の個人会員である。

　□　著者が個人会員の場合，会員種別に関わらず，和文投稿では会員，英文投稿ではMemberと記載する（学生会員あるいはStudent Memberとはしない）。

　□　共著者が会員でない場合，非会員とは記載せず，所属から記載する。

　□　所属の英文表記に誤りがない。

　□　住所の英文表記に誤りがない。

　□　著者の所属に異動があった場合の表記に誤りがない。

　□　Corresponding authorの記載（電子メールアドレス等）に誤りがない。

　□　誤植がない（例（地名）：Hokaido, Saporo etc.）。

４．数式及び記号

　□　ギリシャ文字及びイタリック体等の指定に見落としがない。

　□　本文中だけでなく，図や表に現れる記号にも注意を払う。

　□　英数文字はすべて半角とする（上付き、下付き文字を含む）。

　□　変数（ギリシャ文字を含めて）はイタリック体とする。

　□　単位（m，Nなど），関数（sin，logなど），数字（1，2，3など）はローマン（正体）とする。

５．引用文献，参考文献

　□　和文投稿において，和文文献は日本語で，英語文献は英語で記す。

　□　ReferenceではなくReferencesと記す。

　□　英語表記における著者の姓と名の順序に間違いがない。

　□　西暦の挿入位置が正しい。

　□　雑誌（英語表記）の場合，論文標題は先頭のみを大文字とする。

　□　雑誌の場合，論題の主題のみとし副題は省略する。

　□　単行本（英語表記）の場合，前置詞，接続詞，冠詞以外は単語の先頭文字を大文字にする（雑誌の場合とは異なる）。

　□　“in Japanese”等の使い方に誤りがない。

　□　雑誌出版社名は，細則に従って記す。

　□　本誌を引用する場合，日本語表記では農業食料工学会誌，農業機械学会誌，英語表記ではNogyoshokuryokougakkaishi (Journal of the Japanese Society of Agricultural Machinery and Food Engineers)，Nogyokikaigakkaishi (Journal of the Japanese Society of Agricultural Machinery) とする。

　□　ASABEの引用は，Transactions of the ASABEとする。

　□　各文献の最後にピリオドを忘れずに付ける。

　□　本文中のet al.の表記について（例1：Noki et al., 2003，例2：MAFF., 2003）

上に示した「l」や「F」のあとのピリオドやカンマを忘れずに付ける。

　□　連報で投稿して前報が最新号に印刷された場合，次号以降の初校校正時には，その論文の発行年，巻号，頁を忘れずに記入する。

　□　単行本の場合，引用箇所あるいは参照箇所のページ番号を記す。

６．摘要

　☐　番号等を付した箇条書きについては，左1文字空けずに書き始め，2行目からは行の左端をあける。文章の場合は，行頭を左1文字空けて書き始める。

７．図，表，写真

　□　図中の単位表記方法（数値軸に単位を書く等）に誤りがない。

　□　図中の数値軸の単語に誤りがない。

　□　図表中のキャプションの単語に誤植がない。

　□　図表中のキャプションの英語表記は，先頭の文字だけを大文字とする。

８．その他

１）見出し

□　英文投稿の場合，見出しの先頭のみ大文字とする。

例1：Experimental details，例2：Results and discussion

　３）下線

　　□　英語の略語を説明する際に，スペルアウトした単語の先頭文字に下線を引かない

　　　　例1：FEM (Finite Element Method)，例2：CFD (Computational Fluid Dynamics)

９．英文要旨（Abstract）または英文本文

　□　初回提出時と大幅な変更がある場合は、ネイティブの学識経験者等による添削を受けた証明書を同封する。

10.チェックリスト

　☐　このチェックリストに，署名捺印する。

　☐　このチェックリストを，著者校正終了後，校正原稿とともに必ず印刷所へ返送する。